

令和２年度 県立水戸農業高等学校自己評価表（全日制）

目指す学校像	知・徳・体を身に付けた社会に有為な人材を育成する学校。生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校。魅力ある農業教育を実践し、将来の農業経営者・関連産業技術者を育成する学校。体験学習・国際交流等を通してコミュニケーション能力を磨くことができる学校。地域社会の関係機関・団体・住民等と連携するとともにそれらに開かれた学校。						
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標		達成状況		
[昨年度の成果] ・授業、立哨指導あるいは保護者との連携等を通した反復指導で基本的生活習慣を身に付けさせるための指導を行った。 ・進路指導において、農業系大学8名を含む22人が4年生大学に、7人が短期大学に合格。就職率も100%を達成した。 ・相撲部の全国大会出場や女子バスケ部の県ベスト8など各部とも優秀な成績を収めることができた。 ・いばらきゆめ国体の馬術競技の拠点として、成功裏 ・北海道農業実習の継続に加えて導入した、種子島農業実習を軌道に乗せることができた。 ・農業クラブ茨城県大会において、プロジェクト発表での優秀賞の受賞など、農業の各部門で優秀な成績を収めることができた。 [本年度の課題] ・規範意識を高め、規則を守れる生徒を育てる。 ・思考力・判断力・表現力の育成につながるような観点別評価を徹底させる。 ・進路指導部と各学年との連絡を密にし、1年次から体系的な進路指導体制を確立することで進路意識を高める。各部活動の更なる活性化を図る。 ・農業クラブ活動をより活発にし、体験を中心とする農業教育を充実させ、魅力ある学校行事を実施する。 ・資格取得を奨励し、学習意欲の向上を図る。		・基本的生活習慣の確立とコミュニケーション能力の育成	・基本的生活習慣や規範意識を身に付けさせ、けじめのある行動や5分前行動を心がけることで、自主・自立の精神を育ませる。 ・豊かな人間性や素直な心を育み、コミュニケーション能力を育成することで、いじめ防止につながるような、より良い人間関係の構築に努める。		B		
		・基礎学力の向上と系統的な進路指導体制の確立	・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。 ・生徒の関心・意欲を引き出し、思考力・判断力・表現力の育成につながるような観点別学習状況を踏まえた学習評価を徹底させる。 ・系統的な進路指導体制を確立させ、生徒の進路に沿った自己実現のための、適切な支援・指導を行う。		B		
		・特別活動及び部活動の活性化	・ボランティア活動、社会教育活動、環境美化活動等への積極的な参加を促す。 ・学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動を充実させ、生徒に達成感を持たせる。 ・運動部・文化部等の加入率の向上を図り、部活動の活性化に努める。 ・生徒が、HR活動等を中心として、各教科と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育む。その際、その記述をもとに対話的に関わることによって、生徒の自己実現につなげる。		B		
		・健康と安全教育の充実	・学校施設等の点検・充実に努め、安全な校内環境の整備を進める。安全教育の徹底、特に交通事故の絶無に努める。 ・生徒及び職員の健康管理に努め、健康の保持増進を図る。		A		
		・農業専門教育の充実と地域連携	・一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業への取組を推進することで、魅力ある農業教育を実践し、農業後継者及び関連産業技術者の育成を図る。 ・学校農業クラブ活動の充実を図り、資格取得への積極的な取組と合格率の向上を図る。 ・開かれた学校づくりを継続・発展させるとともに、地域と連携した体験学習（インターンシップ等）の充実を図ることで、勤労観・職業観を育成させる。		B		
		・働き方改革の推進	・学科ごとに業務内容の見直しや再点検等による事務改善・効率化（スクラップアンドビルド）を積極的に推進、最終的には業務量の削減に努める。 ・管理職が率先して、有給休暇等を取得し、教職員一人ひとりの意識改革の醸成とそれに伴う校務の効率化と質の向上に向けて主体的に取り組むことで、効果的な教育活動を具現化する。		B		
評価項目	具体的目標	具体的方策			評 価	次年度（学期）への主な課題	
教 務 部	教育活動が円滑・効率的に機能するような取組の研究	授業環境の整備を図る。	A	A	・観点別評価をもとに評価の方法の適正化を図る。 ・資格取得の促進を図る。 ・奨学金制度の周知を徹底し、進学支援の充実を図る。 ・学校ホームページを充実させ、積極的に情報を発信していく。		
		授業でのIT活用を推進し、情報機器の整備・拡充を図る。	B				
		教育課程に基づいた教育活動の定着を図る。	A				
		新学習指導要領に対応した新たな教育課程を編成する。	A				
	基礎学力の向上	授業研究（授業参観等）を実施し、授業内容の充実を図る。	A				
		基礎学力の向上を目指し、進路指導部や学年団との連携を図る。	B				
資格取得に向けての取組を強化する（全体計画・指導計画の検討）。		A					

	広報活動の充実	情報関連部門を中心に、ホームページの定期的な更新・内容の充実を図る。	A		・学力診断テストの効果的利用を、学年進路指導部と連携し研究する。
		奨学金制度の広報活動を充実させる。	A		・ G I G A スクール構想に向けた環境整備と I C T 教育推進への取り組みを進める。
	教育情報ネットワーク環境の整備	中学生や受検生に向けて、水農体験・学校公開やホームページの充実をさせていく。	B		・ 新教育課程の内容を研究する。
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	朝の立哨指導を継続実施し、制服を整えさせる。	B	B	・基本的生活習慣の確立を図り、社会に適応できるマナーやモラルの向上を図る。 ・生活指導を継続していき、生徒の自立心を育む。 ・生徒指導の目的と方法について、教職員間で共通理解し、実践しながら、生徒たちが主体的にルールを守ることができるよう、協働体制を構築する。 ・本年度から実施した身だしなみ指導を継続しすることで、生徒たちが自主的に身だしなみを整えられる風土を醸成する。 ・全職員が生徒への声かけや生活指導を積極的に実践し、一方通行にならないように、生徒と教職員間の信頼関係を高める。 ・授業中に、不適切なスマートフォンを使用をしないように指導を徹底する。 ・生徒の問題行動が発生した場合、速やかな組織的対応ができるように、報告・連絡・相談を徹底する。
		授業開始時間の着席を厳守させ、授業に取り組む態度を育成する。	B		
		挨拶の励行や身だしなみ・言葉遣い等、学校生活における基本的生活習慣を確立させる。	B		
		ルールや決まりを守り秩序ある生活ができるよう、特別指導を取り入れ、生徒の生活改善を図る。	B		
		授業の遅刻を防止し、時間の大切さを身に付けさせる。	B		
	安全な学校生活環境の維持	貴重品の自己管理を徹底させ、盗難や紛失防止に努める。	B		
		自転車・バイク通学者に対する安全指導の継続と交通ルールを守った運転を励行させる。	A		
		立哨指導等を通して、登下校の安全を確保する。	A		
特別活動部	心の教育の推進	薬物乱用防止教室やケータイ安全教室等の各種講話を通して、法律や規則を守り被害に遭わない生活ができるようにする。	A	B	
		農業教育や道徳教育を通してモラルの向上と命の大切さに気付かせる。	B		
		教育相談やカウンセラー、担任との面談等を通して学校生活への適応と自己実現を促す。	B		
		ボランティア活動・交流活動・体験活動等への参加を促し、自らの立場を理解して他を思いやる心を育成する。	B		
	いじめ防止対策	未然防止として、授業やホームルーム活動を通し生徒の規範意識を高めさせる。	B		
		早期発見として、アンケート調査を実施し実態把握に努める。また、生徒や保護者と相談できる環境を整える。	A		
		早期解消に向け被害者を保護し、速やかに実態把握及び加害者の対応にあたる。	B		
		保護者や警察、相談所等と連携し情報交換をする。	B		
生徒指導部		教職員の共通理解と指導力向上を図るための研修を充実させる。	B	B	
	部活動の活性化	部活動の加入率向上を目指し、運動部だけでなく文化部活動も活性化を図る。	B		
		活動の成果を高めるためのリーダーの育成を図る。	B		
		各活動場所や部室周辺等の環境整備の充実を努める。	B		
	学校行事の充実	水農祭の内容など計画立案の再検討と会場の環境整備を図る。	C		
特別活動部		各種学校行事への積極的な参加を通して、生徒に達成感を体験させるとともに、クラスの連帯意識を高める。	A	B	・学校行事については、生徒主体で運営できる体制を整える。 ・各種委員会の活性化。たとえば、月に1回程度の委員会の時間を確保し活動の機会を与える。 ・部活動に関して、加入率および継続率の向上、外部指導者の積極的活用、活動時間の厳守を目指す。 ・成達会役員のリーダー研修の機会を確保する。 ・各部活動の活動場所の衛生環境整備をする。
	成達会活動の充実	ホームルーム活動、学校行事との連携を深めた各種委員会活動の充実を図る。	B		
	国際理解教育の推進	ニュージーランドへのホームステイについての周知案内の徹底。異文化交流を実践する。	C		
	キャリアパスポートの活用	HR 活動等を中心として、各教科と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育む。	B		
		その際、その記述をもとに対話的に関わることによって、生徒の自己実現につなげる。	B		
進路指導部	系統的な進路指導の充実 (多様な進路実現への対応)	3 年間を見通し、ホームルームでの進路指導の充実を図る。	B	B	・「進路の手引き」を全面改訂し、ホームルーム等での継続的・計画的な活用が課題である。 ・計画的、継続的な進路別課外予定表を作成し、進路実現に向けた課外の必要性を提示する。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の中で、就職日程が変更になったことで、担任の負担が倍増したことから、担任+副担任+学科によるサポート体制が必要である。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策が今後も続くと考えて、進路ガイダンス・企業訪問等については、指導手段や内容の見直しが必要である。
		学年別の進路講話、進路ガイダンス、面接指導を系統的・計画的に行う。	B		
		各種進路情報の収集と積極的活用、情報の共有を図る。	A		
		係分担を明確にし、各学年との連携を強化する。進路指導を組織的に行う。	B		
	進学指導の充実	推薦・AO入試・小論文対策・作文やレポートの作成指導・面接指導を充実させる。	B		
進路指導部		大学説明会や大学見学会への積極的な参加を促し、希望する進路実現を目指す。	B	B	
	就職指導の充実	就職対応の模擬面接指導、履歴書や礼状の書き方などの添削指導を早期に充実させる。	B		
		積極的な企業開拓と継続的な訪問を実施し、就職情報の提供・共有を図る。	B		
	勤労観・職業観の育成	インターンシップへの積極的な参加、体験型ガイダンスや進路講話を充実させる。	B		
保健厚生部	生徒の健康安全に対する管理運営	健康診断の実施とともに、保健日誌を活用して生徒の健康状態を把握する。	A	A	・新型コロナウイルス感染症対策継続のため、衛生用品の供給と生徒教職員への啓蒙に努める。 ・清掃活動実施方法の検討を始める。 ・状況に応じた規模・形態の防災避難訓練を行い、生徒・教職員の意識を高めて災害
	校舎内外の学習環境の安全と美化	感染症対策及びアレルギーを持つ生徒への迅速な対応に万全を期す。	A		
		清掃区分の明確化及び担当教員による指導・監督の徹底に努める。	A		
保健厚生部	防火防災対策の徹底	清掃用具の管理と円滑な供給に努める。	A	A	
		暖房器具の安全な利用を指導する。	A		
		地域と連携した防災避難訓練を実施する。	A		

		教職員の働き方改革の推進	教職員が、健康的に仕事をして、教育活動の質を高めるために、一人ひとりが、一週間に一度は定期退勤をする。 教職員のストレスの軽減のために、相談体制の拡充を図る。	A		に備える。
図 書 部	本校の教育目標に応じた学校図書館作りの研究	本校の教育目標に応じた学校図書館作りの研究	農業教育の専門高校として、関係書類の整備に努める。 本校の文化センターとしての役割を果たすために、図書・視聴覚資料等の整備に努める。 職員研修の成果として、紀要を発行する。	A B A	A	・図書館の活用を高めるため、閲覧室内の環境整備を継続的に行う。 ・年数回、外部講師を招き図書委員研修会を実施し、実務研修や情報交換等を行う。 ・図書委員会活動の活性化を図り、生徒自身の読書意識の向上を図る。 ・古書の管理保管の状況を改善する。
		学校図書館を利用した教育の充実	教科指導とのつながりをもった教育資料の充実を努め、授業・自主学習の支援をする。 校内読書感想文コンクール、図書委員研修会等の開催や広報紙の発行により、読書活動の啓蒙を図り、各種情報の収集と発信に努める。 図書委員会活動を活発にし、生徒の読書活動の活性化を図り、図書館利用者を増やす。	A B A		
		視聴覚機器の充実と利用	授業で利用できるソフトと機器の充実を図り、広く授業・教育活動の場として提供する。	A		
	学校図書館の施設・設備の充実	学校図書館の施設・設備の充実	視聴覚室や閲覧室の学習環境の整備を図る。書庫の書籍の管理環境を改善する。	A		
		司書作業の研修と蔵書の整理	利用しなくなった書籍・ビデオ等の除籍作業をし、蔵書点検を進め書籍の管理を図る。	B		
	渉 外 部	P T A行事参加の促進	P T A行事について確実に保護者に連絡するために、案内文書を各家庭に郵送し、参加率を向上させる。 P T A行事と運営委員会を同日に設定し、効率よい開催を目指す。	A B		B ・新型コロナウイルス感染状況によって、どこまでの行事ができるか模索と工夫をする。 ・広報活動は継続して発信し、会員へのP T A活動の周知を図る。
		P T A支部活動の持続	支部の会員と学校の支部担当者との連携を深めて、支部の活動への会員の参加者数を増やす。運営委員会を活用して支部の活動の活性化を図る。	B		
		校外生徒指導の実施	校門・後駅での登校指導を多くの会員で実施していく。	B		
		主催行事の充実	水農祭・公開講座・視察研修等の本部主催行事は工夫を凝らし、参加率を高める。	B		
		広報活動の充実	広報紙・HPでの行事の案内や報告など、わかりやすくP T A活動を広報していく。	A		
農 場 部	農業後継者・農業関連産業従事者の育成	農業後継者・農業関連産業従事者の育成	チャレンジプロジェクトを充実させるとともに、校外実習体験活動を推進する。 各学科の専門性を生かした資格取得を計画し、合格率向上への指導を充実させる。 規格・認証等（GAP、HACCP、JAS、GI）やSDGsの教育を推進する。	A B A	A	・チャレンジプロジェクトの内容を継続して精査する。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしっかりと行いながら校外学習体験活動を推進する。 ・産官学連携を推進することで地域活性化を目指し、協働して創発的な取組みを進める。 ・スマート専門高校、スマート農業の実践に向けて圃場の整備および職員研修を充実させる。 ・BYODに対応した実習・実験の在り方を検討し、探究的な学びが展開できるようにする。 ・県農業クラブ連盟について、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のなかで、健康・安全を確保しつつ大会を運営する。 ・令和4年度に本県で開催される農業クラブ関東大会に向けて、校内体制を整え準備を行う。
		開かれた学校づくりを継続・発展と地域と連携した体験学習の充実	「農産物直売会」の運営に取り組む。 幼稚園児や小学校児童に対し、農業体験活動の指導・援助の学習を展開する。 地域や関係機関との連携を取り入れた学習（研究）活動を推進する。	A B A		
		プロジェクト活動や各種発表会・競技会等への積極的な取り組みと、農業クラブ活動の充実	プロジェクト活動を推進し、生徒の自主的・主体的学習の深化を図る。 農業クラブの各種発表や技術競技に意欲的に取り組ませる。	A A		
	施設・設備の効率的且つ安全な利用	施設・設備の効率的且つ安全な利用	農場整備計画の策定	B		
		農場協会関東支部大会等の成功	本県で開催される農場協会関東支部大会を適切に運営しする。また、分科会等において、当面する農業教育の諸課題について、他県からの参加者と共に研究協議することで、職員の資質の向上を図る。	C		
	事 務 部	適正な会計事務と計画的な予算執行による円滑な学校運営	適正な事務執行及び集約した発注事務などにより、会計事務の適正化・効率化を図る。 教職員と連携を密にし、年間を通した計画的な執行により、円滑な教育活動に努める。	B		B ・担当者間の連携（情報共有）を定期的に行う。 ・予算執行（必要とする）時期の確認 ・老朽設備・物品の修理または更新の確認及び必要額の把握 ・滞納者への対応方法の共有
		学校施設設備の充実	学校施設設備の整備を計画的に推進し、教育環境の充実を図る。	B		
		学校徴収金等の滞納の解消	保護者の納入意識の高揚を図るとともに、学年・担任との連携の下、学校徴収金等の滞納者の減少を図る。	B		
寮務委員会	基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣の確立	規律ある共同生活を通して、挨拶を励行し、時間を守る態度を育て、自主・自立の精神を身に付けさせる。	B	B	・自己管理が出来ない生徒が一部いるので指導の徹底を図る。 ・寮活用は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響もありほとんど検討されていない。 ・女子の入寮人数を考えながら、入寮計画の
		寮運営の改善及び活性化	長期生の増減に伴った寮運営の在り方を検討し、次年度に向け準備をする。また、寮の有効活用として進学課外場の提供を検討する。また、営農講話など、営農に関する行事をできる限り実践する。	B		
	家庭・地域との連携		寮の生活・規則について、保護者に対して周知・連携を図る。	A		

					検討する。
1 学 年	基本的生活習慣と適切な人間関係の構築	規律ある生活習慣を身に付けさせるために、服装頭髮指導に力を入れる。また、適切なコミュニケーション力と規範意識が身につくよう、集会やホームルーム・授業や実習の中でも継続して指導していく。	B	B	・身だしなみ指導をはじめとする基本的生活習慣の確立をめざし、継続的な指導を行う。 ・進路ガイダンスを中心に、進路実現に向けた指導を充実させる。 ・部活動の推進と農業クラブ活動への積極的な参加を促す。
	進路指導の充実	1 年次より勤労観・職業観を育成するため、進路指導部等と連携し、課外授業やガイダンス等を実施する。また近年基礎学力が重要視されているため、資格取得等への積極的な取組を通して、学習習慣を身に付けさせる。	A		
	活力ある生徒の育成	運動部・文化部等への加入やボランティア活動、また農業クラブ活動への積極的な参加を促すことで、活力ある生徒の育成を目指す。	B		
2 学 年	規範意識の確立	規律ある生活習慣を身につけさせるために、清掃活動の指導、遅刻防止の指導、服装の指導を継続していく。	B	B	・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の中においても充実した学校生活が送れるように行事の実施方法を検討する。 ・社会的な状況の変化を捉えて、的確な進路指導を行い、生徒の進路実現を目指す。 ・規範意識を向上させ、問題行動の未然防止に努める。
	基礎学力の向上	基礎力診断テストの学習到達度が上昇するように、教科担当者と連携してテスト前後の学習指導を充実させ、意欲的に取り組むように促す。	B		
	進路指導の充実	進路ガイダンスや体験学習を通して、進路希望を明確にさせるとともに、能動的に取り組む姿勢を醸成し、希望進路未定者率を10%以下にする。	A		
卒 学 年	進路希望の実現	個々の進路実現のために、生徒とのコミュニケーションを密にし、課外授業等のきめ細かい進路指導を行う。問題集等を有効に使い、一般常識・基礎学力などを身に付ける。小論文指導・面接練習などを繰り返し行う。	A	A	・進路指導計画を見直し、新課程における入試や就職での面接試験に十分対応できるような力を入学時から養成できるようにする。 ・生活習慣の向上を目指し、保護者との連携を深める。
	基本的生活習慣の確立	進路実現のためにも、遅刻・欠席を極力減らし基本的生活習慣を確立させる。普段の生活の中で、適切な態度や正しい言葉遣いができるように指導する。	B		
	規範意識の高揚	最高学年としての自覚を持ち、社会のルールを守り、下級生の模範となるような学校生活を送らせる。家庭との連絡を密にし、指導していく。	A		
農 業 科	農業教育の充実	資格取得のために組織内外の連携を深め指導体制を充実させる。農作物の育成を通して、思いやりや環境への関心を高める。専門教育学習（プロジェクト学習等）を推進する。	A	A	・新しい生活様式に対応し、ICTを活用した専門教育学習を推進する。 ・基本的生活習慣、専門分野の知識について学科全体で指導し定着させ、就職・進学を実現させる。 ・実験実習室内外の環境整備に努め、それに付随した戸締まりや消毒を徹底する。
	基本的生活習慣の確立	挨拶を励行し、規則や時間を守り、自立できる基本的生活習慣を育てる。	A		
	進路希望の実現	面接など繰り返し指導を行い、専門分野の知識を定着させ、就職や進学の希望を実現させる。			
	学習環境の安全と美化	農場実習棟や更衣室等の清掃区分を明確にし、指導・監督の徹底に努める。実験実習室内外の美化及びごみの分別の徹底と軽量化に取り組む。	A		
畜 産 科	授業態度の向上	授業・実験・実習の開始時の整列を励行する。返事・服装の指導を行い、きちんとした態度で学習させる。実験実習の準備から展開・後片付けまで、生徒の実験実習における自主的参加を図る。	B	A	・新しい生活様式に対応した実験・実習および授業展開に取り組む。 ・家畜伝染病の流行に伴い、家畜衛生管理について教室授業や実習に取り入れる。 ・動物飼養管理や実習・研究データ管理について、積極的にICTを活用する授業展開および環境整備を行う。
	体験教育の推進	主体的、創造的に家畜や動物に触れ、生命の大切さを感じる教育を実践する。（分娩管理実習・解剖・解体実習の活用・畜体の測定・動物の運動・食品の加工）	B		
	個に応じた指導	課題研究において、一人一人の目標に沿った課題の設定や内容の充実を図る。専門科目の特色を出し、資格取得の目標を持たせるなど教育内容の充実を図る。	A		
	畜産場の地域社会への開放 わかりやすい授業の展開	牧場を積極的に開放し、地域や関係機関との連携を取り、教育活動の活性化を図る。専門科目学習教室授業と実験実習を有機的に結び付け、意欲的に学習する態度の育成を図る。	A		
園 芸 科	わかりやすい授業の展開	専門科目学習教室授業と実験実習を有機的に結び付け、意欲的に学習する態度の育成を図る。	A	A	・新しい生活様式に対応した実験・実習、授業展開の創意工夫に取り組み、時間をかけて生徒へ定着させ、安心・安全な教育環境を整える。 ・実験実習室内外の環境整備に努め、それに付随した戸締まりや消毒を徹底する。
	園芸作物の栽培技術の習得	プロジェクト学習の取組と、育苗から収穫までの栽培管理実習の強化を図る。特に直売所の運営に積極的に参加させ、年間計画から販売までを通して、6次産業化する農業の実情に合わせた指導を行う。	A		
	プロジェクト活動・課題研究発表会の充実	課題研究・農業クラブ活動で、一人一人がテーマを設定し、自ら問題を解決していく力を育成する。特に地域や関係機関との連携を深められる活動を強化していく。課題研究発表会で、意欲的に発表させることにより、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上を図る。	A		
	理解に繋がる授業の展開	各学年において、段階的な学習活動を確立し、基礎・基本を踏まえた授業を展開する。授業の目標や到達点を具体的かつ明確にし、理解できる授業の実施と授業内容の充実に努める。	A		・理論と実務演習がうまく連動できず、知識と技術の定着が図れなかったため、さらに授業の展開を工夫する。

農業土木科	理論と実技の一体化	理論と実務演習を連動させた授業を展開することで、知識と技術の定着を図る。	B	B	・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の中でも、プロジェクト学習などの展開を充実させ、積極的にＩＣＴを活用する。 ・学習機会を校外に広げることで、さらにキャリア形成を高めていきたい。
	プロジェクト学習の推進	社会貢献及び地域貢献を目標としたプロジェクト学習や課題研究の展開など、生徒が積極的、主体的に学ぶことができる学習環境を整える。	B		
	社会貢献・地域貢献活動の推進	生徒が学ぶフィールドを学校内および校外に広げることで生徒の学習意欲を高め、キャリア形成及びシティズンシップを高める学習機会を整える。	A		
生活科学科	「つくって食べる」という食農教育の推進	自産自消、旬産旬消、地産地消という考えを基本に、有機農法で作物を作り、自給の体験を通して生きるということの本質を理解させる。	A	A	・新しい生活様式にも十分配慮した食品製造や加工実習の在り方を、時間をかけて生徒に定着させ、安全に実施できる技術や知識を持った生徒を育てる。
	自立した生き方、本来あるべき生き方の探求	1年 「作物を栽培して、それを食材として調理・加工して食べることに興味を持ち、食	A		
		2年 栽培管理ができるようになることを通して、自信と誇りを持たせる。 3年 自ら課題を設定し解決することで、自立した生き方につなげさせる。	A B		
食品化学科	わかりやすい授業の展開	農業への興味・関心を高めさせ、社会との関連性を意識させる。	A	B	・新しい生活様式に対応した実習、実験の教材開発および環境整備を行う。 ・資格取得につながる課外活動を実施する。 ・生徒が主体的に取り組める授業や実習内容の見直しを行う。 ・授業内容と連携した農業クラブ活動を推進する。
	進路指導の充実	進学・就職希望の生徒に対する計画的・継続的な支援に努める。また、資格取得への興味関心を高め、受験者及び合格率が上がるように放課後の課外を実施する。	B		
	対外的な活動の充実	農業クラブ活動を中心として、農産物直売所実習やインターンシップの機会を増やすことで、生徒が積極的、主体的に学ぶ機会を増やす。	B		
農業経済科	基本的な生活習慣の確立	ホームルームや授業を通して身だしなみやマナーについて常に意識させる。	B	B	・身だしなみやマナーについては、改善が見られたが、完全ではなかった。 ・現場実習など外部での実習が出来なかったが、検定試験の合格率は上がった。 ・周囲の中学校への農業経済科の周知が不十分であった。
	学習意欲の向上	資格取得など生徒一人一人の目標を定めることにより、意欲的に学習に取り組ませる。インターンシップなど校外でも活躍の場を広げ、生徒の自主性を育てる。	A		
	進路指導の充実 広報活動の充実	進路意識を高め、自己の進路実現のための態度を育てる。 ホームページや学科通信の充実を図る。	B B		
国語科	基礎学力の向上	生徒の実態を踏まえ授業の展開を工夫し、基礎・基本の定着を図る。 授業参観を実施し、学習指導の手だてや工夫を協議し指導力の向上に努める。 漢字力をつけるため授業や定期考査に継続的に取り入れる。また、漢字学習への意識向上や定着のため漢検を活用する。	A B B	B	・漢字力や語彙力など基礎・基本を徹底し継続指導を行う。 ・研修の機会を増やし、授業改善を図る。 ・表現力の向上のため、個に応じた学習指導の工夫・改善をする。
	表現力の向上（進路対策）	目的や場に応じて自分の考えを文章にまとめる力を育成する。書籍や新聞等を活用し、自ら考える力を養い、自己表現力を高め、生徒の進路に応じた個別指導を充実させる。	B		
地歴・公民科	日本国及び世界の国々が形成される歴史的過程と地域的特色の違い及び現代の社会についての理解と知識の深化を図る。	教科書のみならず、新聞や視聴覚教材など多種多様な教材を用いながら、授業内容を分かりやすく伝える工夫をする。また適宜問いかけを入れながら、理解度を確認していく。基本的な内容を精選し、それぞれの科目の特徴を生かした指導内容を構成する。	A B	B	・生徒の主体的な学習活動を促すため、学習内容や方法の具体的工夫について研修を行う。 ・ＩＣＴ機器を活用した授業を展開できるように、教員間での情報交換や研修に取り組む。
	現代の国際社会に主体的に生きる民主的・平和的な国家・社会の一市民として必要な自覚と資質を涵養する。	授業に臨む姿勢を整えさせる。時事問題などを教材として積極的に取り入れ、社会的な関心を喚起する。更に生徒が理解を深め、意見発表できるようにする。 ノート提出・小テストの実施等を定期的実践し、生徒が現代社会に必要な基礎的な知識・教養を身に付けられるよう指導する。	A B		
数学科	基礎学力の向上	基礎・基本の定着を図るため、教科内で積極的に情報交換し生徒の実態に沿った授業を展開する。 基礎学力が定着していない生徒へ個別指導を実施し、基礎の定着を図る。 進学希望の生徒に対して、希望する進路に沿って個別に課外を実施し対応する。	A	A	・ＩＣＴを活用した授業の実践を行う。 ・研修の機会を増やす。 ・個に応じた学習指導の工夫・改善をする。
	数学検定資格取得の奨励	学期に1回を目安に実施し、資格取得を積極的に促し、課外や個別指導を実施する。	A		
理科	教員の指導力の向上	積極的な授業公開や、授業内容や指導法について情報交換を行い、自己研鑽に努める。	B	B	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、生徒実験が実施しにくい中、ＩＣＴを活用し、工夫して授業を行った。 ・学校全体で、更なるＩＣＴ環境の整備の必要性を感じた。
	基礎学力の向上	各科の学習内容と関連した授業内容を精選し、本校生にあった教材を作成する。			
	興味・関心の向上 進路指導への積極的な関わり	科学のトピックスの紹介などを通して、農業と生物・化学の関連性を理解させる。 進学者を対象にした生物・化学分野の課外の実施と個別指導を充実させる。	A B		
保健体育科	協調性や協力性の育成	生涯にわたり継続して運動に親しむ力の育成を図る。	A	A	・熱中症や新型コロナウイルス感染拡大防止に応じた学習指導の工夫・改善し、授業実践する。
		集団としてのきまりを守り、活動できる体育学習を展開する。	A		
		目標の解決を目指して仲間と協力し、運動に取り組ませる。	B		
芸術	基礎学力の向上	提出物を確認し、生徒の技量を確認する。	A	A	・生徒の感性を育てるための教材を研究し、生徒に応じた教材の精選をする。
		名品・名跡を鑑賞し、自己の向上を図らせる。	A		

英 語 科	基礎学力の向上	単語練習や英文理解の反復練習や辞書や副教材等を活用し、基礎から学習できる環境を与え、きめ細かな指導を行う。	B	B	・基礎力診断テストや付随するワークを活用し、より一層の基礎定着と英語技能習得に向けて努力させる。 ・今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響でA L Tの活用ができなかったため、普段の授業から英検等を踏まえ4技能定着を意識させる。
		教科書やノートの準備等、授業に臨む態度を確立させる。	A		
	モチベーションの向上	A L Tを活用し、より実践的な生きた英語を学ぶ機会を与える。	B		
		簡単な内容を理解させ自信を付けさせ、学習のモチベーションを高めさせる。	B		
家 庭 科	資格取得の奨励	授業中、積極的に資格取得を呼びかけ、英検対策の課外・面接を積極的に行う。	A	A	・実習を通して基礎的知識や技術を習得した上で、検定やコンテストへのチャレンジを積極的に推奨する。 ・衛生、安全に配慮した環境を整える。 ・教員が相互に情報共有し、I C Tを活用した授業を実践する
		S T E P英検等、より上位の資格取得を奨励する。	B		
	家庭生活の課題を主体的に解決する能力の涵養	実験・実習等を通して基本・基礎的知識や技術の習得を図るとともに、心の触れ合いを持ち、豊かな人間性と生きる力を育む。	A		
	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度の育成	体験学習・視聴覚教材の利用・新聞記事の活用などにより生徒の興味・関心を高め、家庭生活をより身近な問題として捉えさせる。	A		